

## XIII-2. 計画・設計の意図および期待される効果

### (1) 計画・設計の意図

夢見橋及び施設の整備の方針を以下に示す。

#### 1. 緑地整備の基本方針

- ①日常生活における利用はもとよりイベントにも利用可能なメインの広場（シンボル緑地）を設ける。  
親水緑地にとどまらず、街なかの広場としてまちの賑わいの創出にも寄与するものである。
- ②運河沿いを周遊する遊歩道を設ける。
- ③橋詰めやE・F区間など遊歩道の途中に、小広場を設ける  
特に眺めの良い場所や、道路の交差点等に小広場を設けることにより、休憩場所や、水辺を眺め親しむ場所を提供するものである。  
遊歩道の設置により、運河沿いの散策は可能となるが、途中にこのようなスポットを設けることにより、より楽しく快適に散策を楽しむことができる。
- ④上記①～②の整備においては、当地の歴史性や地域性を考慮するものとする。  
地域産材の活用や、歴史資産の活用、歴史性の表現等に積極的に取り組む。

#### 2. 橋梁の役割・目的

今回計画している木橋は、

- 1)上記②③に対応し、運河本線沿いの遊歩道導線を形成するとともに、そこ自体が水上という特別な場所となり、水辺を楽しむ上質の親水空間となるものである。
- 2)兩岸の広場（シンボル緑地と対岸の広場）を連続させる機能を持つ。  
本来、メインの広場には駐車場やトイレといった利便施設を配置できることが望ましいが、当該場所はさほど広くはないため、これにより、十分なスペースを確保することが困難となる。  
しかし、対岸にそれらの機能を配置し、この2箇所を橋梁で連結することにより、同様の効果をもたらすものである。  
  
なお、これらの理由から車道の必要性はなく、人道橋とした。
- 3)地元の飢肥杉を使った木橋であれば上記機能に合わせて、  
飢肥杉の輸送のために運河が開削されたことや、地域の発展にが木材産業が大きく寄与してきたことなど、歴史性を表現できる。  
また、地元の特産を使用した地域性豊かなシンボルとなるものである。

上記の整備方針を踏まえ、計画・設計の考え方と内容を次頁以降にまとめる。

### 1) 親水性の高い歩行・滞留空間の創出・回遊性の向上

夢見橋は、水辺を楽しむ親水空間と両岸の広場を連続させる機能をもつ。親水性と利用者の快適性、回遊性の向上を図るため、計画・設計時に配慮した事項として、以下のものが挙げられる。

#### ①木材の使用による人の利用にやさしい歩行・滞留空間の創出



#### ②運河兩岸を結ぶ橋梁の整備による回遊性の向上

地区全体の回遊動線を検討した上で、運河を挟んだ対岸相互の行き来に配慮し、夢見橋の整備による回遊性の向上を図った。



## 2) 地域のシンボルとなる歴史的景観資源等を意識した整備

夢見橋及び緑地公園では、当地の歴史性や地域性を考慮し、地域産材の活用を積極的に取り組みました。地元の特産を使用した地域性豊かなシンボルとなることを意識し、整備されたと言える。これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

### ①歴史的な石積み護岸や周辺景観整備を顕在化させる視点場（夢見橋）の整備

橋上にベンチを設置することで、堀川運河に架かる「夢見橋」を新たな視点場として活用し、運河の歴史的な石積み護岸や関連事業等の景観整備により形成された魅力的な景観資源を顕在化させている。



## 3) 地域性の演出

堀川運河は、元々飢肥杉を運送するために開削された運河である。木材産業が地域の発展に大きく寄与してきたことを考えると、飢肥杉の活用が歴史性や地域性の演出に繋がる。これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

### ①地場産材の飢肥杉や飢肥石の活用による地域性の演出



②地域の寺社を参考とした素材の採用

鵜戸神宮を参考とし、屋根は銅板としている。



③地場産材・工法の活用による地域性の演出と地場産業の活性化

夢見橋は、伝統工法の「木組み」で造られている。屋根は、造船技術の「曲げ木」できている。また、地場産材である飢肥杉の木材供給システムの構築をも視野に入れて、地元職人の技術と伝統的な工法を採用して地域性の演出と地場産業活性化を図った。



(2) 期待される効果

1) 設計意図と期待した効果のまとめ

文献調査と設計者ヒアリング、事業者ヒアリングによる計画・設計意図と期待される効果の対応は以下のようにまとめられる。

表 設計意図と期待した効果のまとめ

	意図	景観に配慮した内容	期待される効果
<b>A 親水性の高い歩行・滞留空間の創出・回遊性の向上</b>			
1	木材の使用による人の利用にやさしい歩行・滞留空間の創出	○利用者の利用の快適性に配慮し、地場産材の飫肥杉をふんだんに使用した屋根付き人道橋を整備し、人にやさしく快適な歩行・滞留空間を創出	●意識変化（親しみ・愛着、誇り） ●利用形態・頻度等の変化、地域活動（イベント・行事）活性化、環境保全・学習活動
2	運河兩岸を結ぶ橋梁の整備による回遊性の向上	○地区全体の回遊動線を検討した上で、運河を挟んだ対岸相互の行き来に配慮し、夢見橋の整備による回遊性の向上を図った。	
<b>B 地域のシンボルとなる歴史的景観資源等を意識した整備</b>			
1	歴史的な石積み護岸や周辺景観整備を顕在化させる視点場（夢見橋）の整備	○堀川運河に架かる「夢見橋」を新たな視点場として活用し、運河の歴史的な石積み護岸や関連事業等の景観整備により形成された魅力的な景観資源を顕在化させた。	●意識変化（親しみ・愛着、誇り） ●利用形態・頻度等の変化、地域活動（イベント・行事）活性化、環境保全・学習活動 ●視点場の形成（周囲の景観資源を顕在化させる新たな視点場の創出）
<b>C 地域性の演出</b>			
1	地場産材の飫肥杉や飫肥石の活用による地域性の演出	○地場産材である飫肥杉・飫肥石を活用した。	●意識変化（親しみ・愛着、誇り）
2	地域の寺社を参考とした素材の採用	○鶴戸神宮を参考とし、屋根は銅板とした	●利用形態・頻度等の変化、地域活動（イベント・行事）活性化、環境保全・学習活動
3	地場産材・工法の活用による地域性の演出と地場産業の活性化	○地場産材である飫肥杉の木材供給システムの構築をも視野に入れて、地元職人の技術と伝統的な工法を採用して地域性の演出と地場産業活性化を図った。	

## 2) 期待される効果の発現段階における整理

上記期待する効果について、効果の発現段階の「意識変化」、「活動変化」、「空間変化」において以下のような効果が想定される。

表 発現段階ごとの効果の整理

期待する効果	意識変化	活動変化	空間変化
●快適な歩行・滞留空間の創出		○夢見橋を通勤・通学・近道等で利用している ○夢見橋周辺を歩く回数が増えた ○屋根付橋で休憩するようになった	
●回遊性の高い空間の創出			
●水辺を楽しむ親水空間の創出		○夢見橋から運河を眺める ○観光名所として人が訪れるようになった ○イベント等が開催されるようになった	○再生した運河を眺める視点場の形成 ○運河へ向いた建物 ○再生した運河を眺める視点場となるレストランの建設 ○運河へ向いた建物(ギャラリー)
●地域の特性を活かした空間の形成	○歴史的資源に対して誇りを持つようになった ○飫肥杉や飫肥石により地域らしさを感じる ○地域の景観に対して愛着を持つようになった	○杉利用に関する情報普及 ○清掃等の維持管理活動を行いたい	○飫肥杉や飫肥石などの地域の素材の利用

これを踏まえ、各段階における効果の把握について調査を実施した。